

1. 実況上の着目点

- ① 沿海州の寒冷渦に対応して低気圧が北東進。500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応して南西方向に雲バンド。南側に離れた対馬近海～北海道の西にも高気圧周辺の収束帯に対応する850hPa相当温位342K以上の暖湿気帯の雲バンドがあり、激しい雨を解析、発雷を検知。
- ② 千島の東の高気圧西側の周辺の流れに沿って下層暖湿気が西日本中心に引き続き流入。東～西日本の太平洋側で強い雨を解析している所がある。
- ③ 沖縄の南で、対流雲が低気圧性に回転しており、低圧部を解析。先島諸島に近い北側にスケールの小さな循環があり、非常に激しい雨を解析、発雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧からのびる寒冷前線が20日には北日本を南下。その南側の下層暖湿気帯（シアライン付近）に追いつき、21日には、前線が東北地方から北陸地方の沿岸まで南下。前線付近と南側の下層暖湿気の収束により対流雲が発達し、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では21日にかけて、東日本では20～21日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北海道地方では、低気圧が接近する20日にかけて強風や高波に注意。
- ② 1項②の下層暖湿気に伴う対流雲は日中の気温上昇に伴うものが中心となり、西日本～東北地方では、21日にかけて引き続き対流雲が発達する所がある。上空の寒気や低気圧、前線に向かって流入する下層暖湿気、地上の昇温の影響により大気の状態が不安定となる。北～西日本では20日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。特に北日本では、局地的に大気の状態が非常に不安定となるため、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の低圧部は、20日夜にかけて熱帯低気圧に変わる。その後も、華南～南シナ海～沖縄の南はスケールの大きな低圧域が続き、その周辺の沖縄地方では上層正渦度や低気圧性の流れに沿って流入する下層暖湿気の影響が続き、発達した対流雲が断続的に通過し、大雨となる所がある。沖縄地方では21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。熱帯低気圧が接近する20日にかけては、沖縄地方では強風や高波に、奄美地方では高波に注意。
- ④ 2項①②③の要因により、全国的に21日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ⑤ 上層の高気圧の中心は21日にかけて九州南部付近で停滞する。南下してくる前線の南側の西日本や東海地方を中心に20日にかけて猛烈な暑さが続き、21日も厳しい暑さの所が多い。熱中症に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ②波浪(明日まで)：奄美・沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。